

代表申請者のみ

所属長	所属科長	事務(局/部)長

令和4年 3月29日

理 事 長 殿
学 　長 殿

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関して、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ（KURepo）に公開する旨、承諾いたします。

1. カテゴリー	<input type="checkbox"/> 研究 <input checked="" type="checkbox"/> 開発・提案 ／カテゴリーNo. 50
2. 企画題目	ポスト・コロナを見据えた東大阪まちおこし支援 -稻田桃再生栽培プロジェクト-

研究代表者

所 属 : アンチエイジングセンター/薬学総合研究所

職・氏名 : 教授・森川 敏生



令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	ポスト・コロナを見据えた東大阪まちおこし支援 -稻田桃再生栽培プロジェクト-
研究者所属・氏名	研究代表者：アンチエイジングセンター/薬学総合研究所・教授・森川 敏生 共同研究者：アンチエイジングセンター/農学部食品栄養学科・教授・上嶋 繁 アンチエイジングセンター/農学部食品栄養学科・准教授・木戸 慎介 アンチエイジングセンター/薬学総合研究所・教授・角谷 晃司 社会連携推進センター・講師・日置 智津子 薬学部薬用植物園・技術職員・川村 展之 東大阪市リージョンセンターももの広場・村田 俊明 グリーン大阪農業組合・代表理事専務・出口 博司 近畿大学校友会東大阪支部・宮崎 利一

1. 研究、開発・提案 目的及び内容

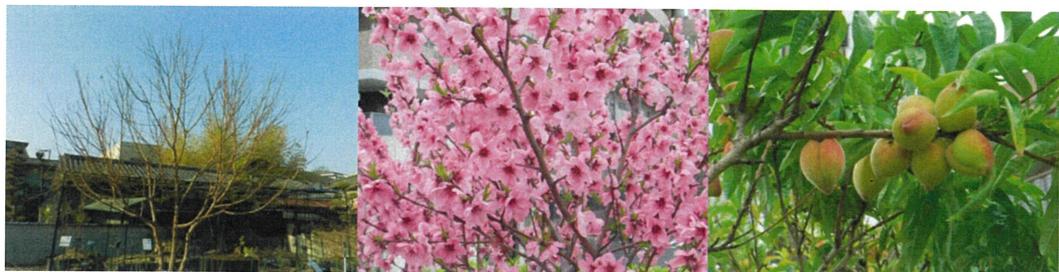
東大阪市の稻田地域は、古くは新開池へ合流していた旧蘿江川の両岸に営まれた集落で、かつては桃の産地として広く知られていた。「稻田桃」と呼ばれるこの桃は、日本古来の野生種で、直径約5cmと小ぶりで尖っていることや水蜜桃に比べて酸味があるのが特徴で、お盆の供え物として大阪市内や京都へ出荷され重宝されていた。当時は同地域の約7割が桃林だったといわれ、江戸時代の「河内名所図会」には、川に舟を浮かべて花見を楽しむ様子が描かれているという。江戸時代後期ごろからは河内木綿の栽培が盛んになって桃の栽培は減り、明治18年の大洪水で大半が姿を消した。この「稻田桃」を現代に復活させるべく、平成13年に地域住民らが『稻田桃再生栽培プロジェクト』を立ち上げ、現在では楠根小学校西側の第二寝屋川堤防沿いに約2kmにわたって植栽された稻田桃が鮮やかに花を咲かせ、稻田地域の春の風物詩となっている。加えて、地場産物として地元小学校での地域学習に活用するとともに、毎年の収穫時には地域ボランティアによる「稻田桃ジャム」を製造、JAグリーン大阪などで販売も行ってきた。このように稻田桃の普及と認知度向上をめざした取り組みは着実に実を結びつつあったが、一昨年度からつづく新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、各種イベントや活動がすべて長期間にわたり中止となり、活動の継続性が失われた。

このような背景のもと、ポスト・コロナを見据え、現状でも可能な範囲での活動を支援すべく、本学のアンチエイジングセンターですすめている『アンチエイジング弁当の開発』のサテライト企画として、この稻田桃を食材として活用した学生参加型の取り組みを実施し、もって、本学と東大阪地域の連携および地域振興に貢献する一助としたい。

2. 研究、開発・提案 経過及び成果

1. 薬用植物園での稻田桃の展示栽培

- 東大阪地域の特産物である「稻田桃」を薬学部薬用植物園内で展示栽培すべく、園内に定植、整備した。今後、ポスト・コロナで開催可能な見学会などで紹介・活用することで、その認知度向上の一役を担うことを期待している。



2. 「稻田桃」を契機にグリーン大阪と近畿大学が交流

- 7月30日（金）にJAグリーン大阪へ表敬訪問し、本店アグリゾーンで栽培している「稻田桃」の視察と農業と通じたJAとの交流に関する打ち合わせを実施した。



3. 稲田桃を用いたスイーツ「桃パイ」を奈良病院の小児病棟に入院する子供たちに提供

- 8月6日（金）に、農学部食品栄養学科の学生が、稻田桃のジャムを使った「桃パイ」を奈良病院栄養部のスタッフの指導のもとで調理し、小児病棟に入院する子どもたち約30人に提供しました。



3. 本研究と関連した今後の研究、開発・提案 計画

本提案を通じ、東大阪市リージョンセンターーやグリーン大阪農業組合などの東大阪地域の行政機関と連携した取り組みをすすめる端緒となる機会を得た。

次年度以降、薬学部薬用植物園にて定期的に実施している見学会での「稻田桃」にまつわる講演会の開催を計画している。また、現在、グリーン大阪農業組合が地場農産品として注目している新食材の「オカワカメ」について、その普及やメニュー開発、機能性評価などを実施することを予定している。これらの学官連携をもって、ポスト・コロナを見据えた東大阪まちおこし支援に取り組みたい。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
農学部学生考案の「桃パイ」を入院中の子供たちに提供 東大阪市稻田地区の幻の名産品「稻田桃」を使用. NEWS RELEASE, KINDEI UNIVERSITY	ニュースリリース	2021.7.30
「稻田桃」を契機にグリーン大阪と近畿大学が交流. FOREST 9・10月号, 264, 2021, p. 2.	雑誌	2021.9.01
デザートを病院に提供 稲田桃が結ぶ地域貢献. 日本農業新聞 2021年9月10日(金)付け11面	新聞	2021.9.10
「稻田桃」で町おこし 近畿大学・JAグリーン大阪. 日本農業新聞全国版 2021年10月14日(木)付け14面	新聞	2021.10.14
稻田桃 入院中の子どもに提供. JAグリーン大阪, JAグループHP	HP	2021.11.05

5. 研究・開発・提案 課題の成果発表等

【ニュースリリース】

1. 農学部学生考案の「桃パイ」を入院中の子供たちに提供 東大阪市稻田地区の幻の名産品「稻田桃」を使用 (2021.7.30)

近畿大学農学部食品栄養学科では、病院食の質の向上を目的に、平成28年(2016年)4月から近畿大学奈良病院と連携して、入院中の患者様を対象とした「食事満足度向上プログラム」を実施しています。

今回は、近畿大学薬学総合研究所とアンチエイジングセンターが、「オール近大」新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト「ポスト・コロナを見据えた東大阪まちおこし支援」の一環として取り組む、東大阪市稻田地区の名産品を復活させる「稻田桃再生栽培プロジェクト」で栽培した稻田桃を使用し、農学部食品栄養学科の学生が「桃パイ」を考案しました。

<https://newscast.jp/news/7677228>



農学部学生考案の「桃パイ」を入院中の子供たちに提供
東大阪市稻田地区の幻の名産品「稻田桃」を使用

セントラル 奈良病院 研究所 附属農場 2021.07.30

農 薬

【新聞、雑誌など】

1. JAグリーン大阪広報誌 FOREST 2021年9・10月号



「稻田桃」を契機にグリーン大阪と近畿大学が交流

7月30日(金)、当JAは近畿大学の方々が、本店アグリゾーンで栽培している稻田桃の視察と農業を通じたJAとの交流を兼ねて訪問されました。JAは、収穫したばかりの稻田桃を同大学に提供することになり、今後も地元農産物を活かした交流を図ることになりました。

当JAは、近畿大学新規コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト「ポスト・コロナを見据えた東大阪まちおこし支援」を行っています。その取り組みとして、農学部と奈良病

院の連携による病院食の食事満足度向上プログラムに、稻田桃のジャムを使ったデザートを、入院中の子供たちへ提供するため、今回の訪問となりました。同大学側は、オカラについて、これまでに地域貢献を実現している共通点の発見があるなど、有意義な交流となりました。8月6日(金)には、同JAは、奈良病院栄養科のスタッフの指導のもと、稻田桃を古くから東大阪市の稲田地区で盛んに栽培されていた日本古来の自生種で、実が小さく尖っているのが特徴。明治時代に市民ボランティアによって、約30名の稻田桃を使つた栽培プロジェクトが稻田桃を復活させ、アグリゾーンにて栽培しています。

2. デザートを病院に提供 稲田桃が結ぶ地域貢献、日本農業新聞 (2021.9.10)

J-POWER
学でクリエイティブ、地域貢献を目標に活動を始めた。そこで取り組むべき課題の一つとして、地域の特産である「稻庭芋」のデザートを作り、地域の病院へ贈ることとした。今後は野菜を中心とした新商品開発にも挑戦していく考えだ。

デザートを病院に提供 稻田桃が結ぶ地域貢献



近畿大学の木戸准教授(左)と上嶋教授(右が2人目)
JAの堤下部長(右)

コロナ禍のまちおこし支援

JAグリーン大阪

援 JAグリーン大阪
近畿大学が交流

JJAと同大学では、地域貢献につながる活動に取り組んでいます。JJAは、毎年夏期休暇を利用して、農業実習や農業実験等の活動を行っています。また、JJAは、農業実習の際に地元の農家や農業機関等と連携して、農業技術の普及や農業文化の発展に貢献しています。JJAは、農業実習を通じて、農業の実際の状況を学び、農業に対する理解を深めています。また、JJAは、農業実習を通じて、農業に対する興味や関心を高めています。JJAは、農業実習を通じて、農業に対する知識や技術を学び、農業に対する実践的な経験を積みます。JJAは、農業実習を通じて、農業に対する実践的な経験を積みます。JJAは、農業実習を通じて、農業に対する実践的な経験を積みます。

3. 「稻田桃」で町おこし 近畿大学・JAグリーン大阪、日本農業新聞全国版 (2021.10.14)

「稻田桃」で町おこし

近畿大学は、新型コロナウイルス禍の克服に貢献するために2020年に72件、2021年には53件のプロジェクトを企画した。その一つ「ボスト・コロナを見据えた東大阪まちおこし支援」にJAGグリーン大阪が賛同。連携第1弾として管内特産の「稻田桃」を使ったパイを、奈良県生駒市にある同大学奈良病院に入院する子どもへ提供した。

明治時代に八千人を枯死したが、2000年ごろに市民ボランティアによって復活。10年にJAに苗木が贈られていた。JAは「稻田桃」の果実を大学に提供。今年8月上旬、食品栄養学科の学生が同病院栄養部の指導の下、調理に挑戦。小児病棟に入院する約30人にデザートとして振る舞い、喜ばれた。



「稻田桃」を使ったパイを調理する
学徒（奈良市で）

J Aを訪問。J A営農経済部の堤下洋部長とオカワカメの加工品開発など、今後の連携の可能性などを話し合った。

オカワカメは、ツルムラサキ科のつる性多年草で、サキモチの「よし」と同じく「吉野」の別名がある。

堤下部長は、「連携によって学びの場の提供に加え、地元農産物のPRと地域貢献につなげたい」と話す。

4. 稲田桃 入院中の子どもに提供 - JA グリーン大阪, JA グループ HP (2021.11.05)

大阪府 2021.11.05

稻田桃 入院中の子どもに提供 - JAグリーン大阪



② 近士と連携！地域貢献

https://org-ja-group.ip/challenge/article_post/4042/